

微量採血のための穿刺器具の不適切な使用について

このたび、中国電力グループの株式会社エネルギー介護サービス(社長:勝浦 慎治)において、微量採血のための穿刺(せんし)器具(針の周辺部分がディスプレイ[使い捨て]でないもの)の不適切な使用事例を1件確認しました。

当該器具については、平成18年3月に厚生労働省から複数の患者に使用しないよう注意喚起がなされていましたが、エネルギー介護サービスでは、平成19年4月25日、他の方の専用器具を借用して、針を新しいものと交換し、針の周辺部を消毒したうえで使用したものです。

また、当社中電病院(院長:岩森 洋)においても、厚生労働省の同文書により注意喚起がなされる以前に不適切な使用実態があったことを確認しました。

このような事例が発生したことを深くお詫び申し上げますとともに、今後、再発防止に努めてまいります。

1. エネルギー介護サービスにおける事例

(1)発生状況

エネルギー介護サービスが運営する介護付き有料老人ホーム「エネルギーケア平和公園」において、平成19年4月25日、同ホームのデイサービスを訪れた糖尿病の利用者1名が体調不良を申し出られたため、同ホーム入居者が使用しておられる専用器具を借用して、針を新しいものと交換し、針の周辺部を消毒したうえで採血し、血糖値測定を行いました。

(2)感染症の有無

関係者については、現在のところ体調不良等がないことを確認していますが、今後、感染症の有無について検査を実施します。

(3)今後の対応

同ホーム入居者および利用者のみならず深くお詫び申し上げますとともに、同社内での器具の正しい取り扱いを周知徹底し、また、新しい器具を常備するなど、再発防止に努めてまいります。

2. 中電病院における事例

(1)発生状況

中電病院においては、糖尿病の方に対して、手術前後の血糖値を確認する等の目的から、平成15年8月から18年3月まで当該器具を使用して血液を微量採血し、血糖値を測定していました。この際、針は新しいものに交換していましたが、器具本体については、針の周辺部を消毒した上で複数人に使用していました。調査の結果、最大で延べ160名程度の方々に対して不適切な取り扱いがありました。

なお、中電病院では、平成18年3月に同省から注意喚起がなされて以降、当該器具の使用を中止し、針の周辺部分もディスプレイ(使い捨て)タイプの器具を使用しています。

(2)感染症の有無

現在のところ、今回の不適切な事例が原因と考えられる感染症は確認できておりません。

(3)今後の対応

今後、相談窓口を設置するとともに、該当する方々の感染症の有無を調べるため、無料で血液検査を実施させていただきます。

【患者さまからのお問い合わせ先(相談窓口)】

中電病院 082-241-8221(代表)

以上